

皆さんの声を町政に

# 町政懇談会を開催

6月21日の馬頭総合福祉センターを皮切りに「町政（まちづくり）懇談会」が町内16カ所で行われました。

この懇談会では、「那珂川町地域福祉計画」、「那珂川町協働のまちづくり推進計画」、「デマンド交通」などの概要について説明し、今後のまちづくりについて多くの町民の皆さんから広く意見・要望を伺うことができました。

地元行政区长、議員の方の協力のもと、多くの町民のご出席をいただき、ありがとうございました。

今回の懇談会で出されたご意見とご質問の中から主なものを次のとおり掲載します。（質問内容は抜粋）



## 地域福祉計画について

Q. 地域福祉とは、具体的にどういうことか？

A. 「地域福祉」とは、大変広い意味があつて分かりづらいと思うが、要は住み慣れた地域、今まで自分が住んでいた地域で高齢になり多少体が弱くなつても、みんなでお互い支え合いながら暮らしていきけるような地域を作っていくましようということである。

Q. 那珂川町の一人暮らしの高齢者数は把握しているのか？

A. 現在、75歳以上の高齢者世帯を調査中だが、65歳以上



の一人暮らし世帯数については、平成20年の民生委員の調査で、約370世帯となっている。

## デマンド交通について

Q. 町営バスやここにこバスからデマンド交通へ変更する理由は？

A. 現在の町営バスやここにこバスの利用者が少なく、小中学生の通学を除けば、利用者のほとんどが、お年寄りである。バス停まで出てくるのが大変なお年寄りのために、自宅付近まで送迎するデマンド交通の方が、利便性が高ま

るし、人が乗らなくても必ず運行しなければならぬ町営バスとは異なり、利用者がいない時間帯は運行しないデマンド交通の方が、運行費用を縮減できるなどメリットがある。一方、目的地については、公共施設、病院、スーパー、市街地など町内14カ所に限定され、乗り合いのため、到着時間がその都度異なるなどのデメリットもある。

Q. 現在、町営バスなどを通学で利用している小中学生はどうなるのか？

A. 10月から来年3月までは、町営バス及びここにこバスとデマンド交通は併用されるが、来年4月から町営バス及びここにこバスは廃止され、小中学生などの通学については、新たにスクールバスを運行することになる。

Q. デマンド交通の利用者について、年齢制限などを設けるのか？

A. 年齢制限は設けない。ただし、運行に必要なため、利用者の事前登録が必要となる。

Q. 大田原や烏山などの町外への乗り入れは可能か？

A. 町内に限定される。基本的に既存のバス路線がある場合は、そちらで対応してもらう。

Q. 病院、役場、商店街など停留所が限定されるとのことだが、運動場などへの各種大会等での送迎などにも利用できないのか？

A. 10月からの2年半の実証運行の中で、実際に利用された方々の意見を聞きながら、毎年度、見直しを図っていきたい。ただし、運行台数が限られるので、例えば、何百人も集まる大会で、多くの方がデマンド交通での送迎を希望されると対応が難しいと思う。

Q. デマンド交通の運行形態は？

A. 町内を6エリアに分け、午前3便、午後3便の計6便運行、1人1回300円の運賃を予定している。運行は町内のタクシー会社に委託し、普通乗用車のほか10人乗りワゴン車を使用する。

Q. 平日のみの運行となる。2年半の実証期間中に多くの要望があれば検討したい。

Q. 土日の運行はしないのか？

A. 平日のみの運行となる。2年半の実証期間中に多くの要望があれば検討したい。

**庁舎建設について**

Q. なぜ、新庁舎建設が必要なのか？

A. 庁舎建設については、建てることを前提とした話ではない。

ただ、馬頭庁舎は築51年、小川庁舎も築41年で老朽化しており、耐震化もなされていないなど、防災拠点として、不適である。

耐震補強工事をした方が良いか、南那須地区の消防庁舎の再編に併せて、敷地を共有するなどして、安く新庁舎を整備した方が良いか、今のまま、何もしないでいるのか。町民の皆さんの意見を聞き、議会とも相談して判断したいと思っている。

Q. 庁舎建設の財源はあるのか？

A. 合併特例債が平成26年まで活用できる。地方債という借金ではあるが、償還金の7割が交付税に算入され、町の実質的負担が3割という有利な起債である。このほか、合併振興基金、財政調整基金、地域振興基金などがあり、有効に活用したい。仮に庁舎を建てる場合は、必要最小限の

施設としたい。

Q. 新庁舎を建てる場合は、その位置はどの辺になるのか？また、現在の庁舎はどうなるのか？

A. 新しく建てるのであれば、町の中心地ということになると思うが、財政が厳しいこともあり、出来るだけ金のかからないような庁舎(用地費を含む)にする考えである。

現在の老朽化した庁舎については、(安全面などを考慮して)壊すことになる。

Q. 那須烏山市と合併になった場合、新庁舎そのものが無駄になるのではないかと？

A. 4町合併が破綻した経緯があるし、那須烏山市との合併は、必ずしも財政的に豊かにならないと思っている。また、大田原市と合併した方が

良いとの意見もあるが、当分、このまま単独で十分やっていけると思っている。

**消防再編について**

Q. 消防分署の老朽化により、分署の統合・建設を図ることのことが、現在のまま4カ所の消防署ではだめなのか？

A. 消防署に関しても、行革

の中で、職員数を削減する方向である。救急業務と消防業務に支障をきたさないためにも市町単位に各1ヶ所整備するのが、効率的であるとの判断である。

**その他の事項について**

Q. 町内で緊急通報装置を設置している世帯数は？

A. 一人暮らしの高齢者60世帯に設置している。

設置を希望する場合は、民生委員さん経由でも良いし、直接、町へ申し込んでもらっても良い。設置は業者が行い、費用は町が負担する。

Q. 地区の火の見やぐらが老朽化して危険である。防災無線のスピーカーが附属するので、撤去してからでないと倒せない。

A. 小川地区の防災無線について、今年度から2カ年でシステムの変更を考えている。その際、現地調査をし、撤去するなり、改修するなり決定したいと思っている。

Q. 矢又地内で貧困ビジネスがあったが、町の対応はどうなっているのか？

A. 今年1月ごろ、競売物件

だった家に都会から多数の転入者があり、生活保護の申請があった。現在、13〜14人が共同生活をしている。

町としても、県や警察、消防と立ち入り検査を行い、不正があれば、指導していく方針である。

なお、生活保護費については、国と県で負担しており、町の負担はない。

Q. 学校の統廃合により、廃校となった校舎について、今後、どう活用していくのか？

A. 現在、武茂小は温泉トラフグの養殖場として、また、健武小は都会と地域の子どもたちとの交流拠点、大山田小は福祉関係の施設としてNPO法人にそれぞれ貸し出している。

和見小はできるだけ地元の方が使いたいとのことなので協議中である。

まだまだ使える施設もあるので、地元の方を含め、ぜひアイデアを出してもらって活用できればと思っている。

平成22年度町政懇談会出席者数一覧表

開催月日	会場	行政区名	出席者数	
6月	21日(月)	馬頭総合福祉センター	新町、室町、南町、田町第1〜第4、片根	39人
	23日(水)	多目的富山集会所	富山	36人
	25日(金)	小砂地区コミュニティセンター	小砂	18人
	27日(日)	大山田体育館	大山田下郷、大山田上郷	39人
	28日(月)	多目的和見集会所	和見	24人
7月	1日(木)	多目的健武集会所	健武	35人
	3日(土)	馬頭東小学校体育館	大内、大那地	39人
	5日(月)	馬頭総合福祉センター	矢又、北向田、久那瀬	25人
	7日(水)	多目的松野集会所	松野	30人
	9日(金)	小口農村活性化施設	小口	29人
	10日(土)	小川中学校ランチルーム	小川第9〜第11	14人
	12日(月)	谷川体育館	盛泉、谷川	38人
	15日(木)	南小学校ランチルーム	小川第6〜第8	18人
	16日(金)	薬利小学校体育館	小川第12〜第14	13人
	20日(火)	小川総合福祉センター	小川第3〜第5	34人
22日(木)	小川公民館	小川第1・第2	20人	
16 会場			451人	